

作成日 2014年4月1日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	MarDx LEGIONELLA IFA TEST SYSTEM
構成試薬	: 「 <i>Legionella</i> Omni Slides」 : 「 <i>L.pneumophila</i> Serogroup 1 Positive Control, IFA」 : 「 <i>L.pneumophila</i> Negative Control, IFA」 : 「 <i>Legionella</i> FITC IgG Conjugate」 : 「 <i>Legionella</i> Mounting Medium」 : 「Phosphate Buffered Saline」 : 「Coverslips」 : 「Blotters」
会社名	富士レビオ株式会社
住所	東京都新宿区西新宿 2-1-1
担当部門	お客様コールセンター
電話番号	0120-292-832
FAX 番号	03-6279-0204
製品コード	180686

2. 危険有害性の要約

含有している成分(アジ化ナトリウム、チメロサル)で以下の情報が報告されている。

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」 「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」 「*Legionella* FITC IgG Conjugate」 に共通

成分(危険有害物質): アジ化ナトリウム

GHS分類

分類実施日	H22. 2. 19、政府向け GHS 分類ガイダンス (H21. 3 版) を使用
物理化学的危険性:	火薬類 区分外
	可燃性・引火性ガス 分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール 分類対象外
	支燃性・酸化性ガス 分類対象外
	高压ガス 分類対象外
	引火性液体 分類対象外
	可燃性固体 分類できない
	自己反応性化学品 タイプ G
	自然発火性液体 分類対象外
	自然発火性固体 区分外
	自己発熱性化学品 分類できない
	水反応可燃性化学品 区分外
	酸化性液体 分類対象外
	酸化性固体 分類対象外
	有機過酸化物 分類対象外
	金属腐食性物質 分類できない

健康に対する有害性：急性毒性（経口）	区分2
急性毒性（経皮）	区分1
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分外
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分1
（心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性）	
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分1
（中枢神経系、心血管系、肺）	
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性：

分類実施日

急性毒性：H22. 2. 19 政府向けGHS分類ガイダンス（H21. 3版）を使用

慢性毒性：H18. 3. 31、GHS分類マニュアル（H18. 2. 10）を使用

水生環境急性有害性 区分1

水生環境慢性有害性 区分1

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険

危険有害性情報：飲み込むと生命に危険

皮膚に接触すると生命に危険

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性の障害

長期にわたる、または、反復ばく露により、中枢神経系、心血管系、肺の障害

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き：【安全対策】

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

眼、皮膚または衣類に付けないこと。

粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼でやさしく洗うこと。
皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。
直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと。取り除くこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚または髪に付着した場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合、水で数分間、注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露した場合は医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
漏出物を回収すること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」 「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」 「*Legionella* FITC IgG Conjugate」 「*Legionella* Mounting Medium」 に共通

成分（危険有害物質）： チメロサル

GHS分類

分類実施日	H22. 2. 19、政府向け GHS 分類ガイダンス（H21. 3 版）を使用	
物理化学的危険性：	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	分類できない

	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分3
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分2
	生殖毒性	区分1B
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分2（血液系 腎臓 皮膚 中枢神経系）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分1（中枢神経系）
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：		
分類実施日	急性毒性：H22.2.19 政府向けGHS分類ガイダンス（H21.3版）を使用	
	慢性毒性：H18.3.31、GHS分類マニュアル（H18.2.10）を使用	
	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

GHS ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険
 危険有害性情報： 飲み込むと有毒
 眼刺激
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
 遺伝性疾患のおそれの疑い
 発がんのおそれの疑い
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 血液系 腎臓 皮膚 中枢神経系の障害のおそれ
 長期又は反復ばく露による中枢神経系の障害

注意書き：【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 適切な保護手袋を着用すること。
 適切な個人用保護具を使用すること。
 粉じん、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。
 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名： 研究用試薬

成分及び含有量

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」 「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」 「*Legionella* FITC IgG Conjugate」 に共通

成分（危険有害物質）： アジ化ナトリウム (Sodium azide)

化学特性（化学式等）： NaN_3

分子量： 65.02

C A S N o : 26628-22-8

濃度又は濃度範囲： 0.1%

官報公示整理番号（化審法）： (1) -482

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」 「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」 「*Legionella* FITC IgG Conjugate」 「*Legionella* Mounting Medium」 に共通

成分（危険有害物質）： チメロサル

化学特性（化学式等）： $\text{C}_9\text{H}_9\text{HgNaO}_2\text{S}$

分子量：	404.82
CAS No.：	54-64-8
濃度又は濃度範囲：	0.01%

4. 応急措置

- 吸入した場合：新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息されること。気分が悪い時は医師を呼ぶこと。
- 皮膚に付着した場合：直ちにすべての汚染された衣類を取り去ること。皮膚を速やかに洗浄すること。汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。直ちに医師を呼ぶこと。
- 目に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。直ちに医師を呼ぶこと。
- 飲み込んだ場合：速やかに口をすすぎ、医師の診断を受けること。吐かせないこと。

5. 火災時の措置

- 消火剤：「*Legionella* Omni Slides」「Coverslips」「Blotters」「Phosphate Buffered Saline」は不燃物であり、無関係である。
「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」「*Legionella* FITC IgG Conjugate」「*Legionella* Mounting Medium」(水溶液)は不燃物であり、無関係である。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
関係者以外の立ち入りを禁止する。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や粉じんやヒュームの吸入を避ける。風上に留まる。
- 環境に対する注意事項：
河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。湿った不活性な不燃材料で処理し、清潔な帯電防止工具を用いてプラスチック容器に入れ、ゆるく覆いをし、後で破棄処理する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：
危険でなければ、漏れを止める。すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策：「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気：十分な換気ができる場所で取扱う。
- 安全取扱い注意事項：換気の良い場所で取り扱うこと。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。皮膚への接触、吸入又は飲み込んではいない。眼の中又は衣類に付けないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

- 適切な保管条件：直射日光を避け、2～8℃の冷暗所に保存する。

保存時には凍結しないように注意する。

安全な容器包装材料：内容物が揮発しない容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

含有している成分(アジ化ナトリウム、チメロサル)で以下の情報が報告されている。

管理濃度

アジ化ナトリウム： 設定されていない。

チメロサル： 設定されていない。

許容濃度

アジ化ナトリウム

日本産業衛生学会（2009年度版）： 設定されていない。

ACGIH（2009年度版）： TLV-STEL (C)
0.29ppm(アジ化ナトリウムとして)
0.11ppm(アジ化水素水蒸気として)

チメロサル

日本産業衛生学会（2007年度版）： 設定されていない。

ACGIH（2007年度版）： 設定されていない。

保護具

呼吸器の保護具： 防じんマスク、簡易防じんマスク

手の保護具： 適切な保護手袋を着用すること。

目の保護具： 適切な眼の保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具： 適切な保護服を着用すること。

適切な衛生対策： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

「*Legionella* Omni Slides」

外観（形状、色）：	無色透明 ガラス製
臭い：	なし
pH：	データなし
融点／凝固点：	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲：	データなし
引火点：	データなし
自然発火温度：	データなし
燃焼又は爆発範囲：	
（上限）	データなし
（下限）	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重：	データなし
溶解性：	データなし
オクタノール／水分配係数：	データなし
分解温度：	データなし

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」

外観 (形状、色) :	無色透明の液体
臭い :	データなし
pH :	データなし
融点/凝固点 :	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲 :	データなし
引火点 :	データなし
自然発火温度 :	データなし
燃焼又は爆発範囲 :	
(上限)	データなし
(下限)	データなし
蒸気圧 :	データなし
蒸気密度 :	データなし
比重 :	データなし
溶解性 :	データなし
オクタノール/水分配係数 :	データなし
分解温度 :	データなし

「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」

「*Legionella* FITC IgG Conjugate」

外観 (形状、色) :	無色透明の液体
臭い :	データなし
pH :	データなし
融点/凝固点 :	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲 :	データなし
引火点 :	データなし
自然発火温度 :	データなし
燃焼又は爆発範囲 :	
(上限)	データなし
(下限)	データなし
蒸気圧 :	データなし
蒸気密度 :	データなし
比重 :	データなし
溶解性 :	水溶性
オクタノール/水分配係数 :	データなし
分解温度 :	データなし

「*Legionella* Mounting Medium」

「Phosphate Buffered Saline」

外観 (形状、色) :	無色透明の液体	白色の固体
臭い :	データなし	データなし
pH :	9	7.5(溶解後)
融点/凝固点 :	データなし	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲 :	データなし	データなし
引火点 :	データなし	データなし
自然発火温度 :	データなし	データなし

燃焼又は爆発範囲：		
（上限）	データなし	データなし
（下限）	データなし	データなし
蒸気圧：	データなし	データなし
蒸気密度：	データなし	データなし
比重：	データなし	データなし
溶解性：	水溶性	水溶性
オクタノール／水分配係数：	データなし	データなし
分解温度：	データなし	データなし

	「Coverslips」	「Blotters」
外観（形状、色）：	無色透明 ガラス製	白色 紙
臭い：	データなし	データなし
pH：	データなし	データなし
融点／凝固点：	データなし	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲：	データなし	データなし
引火点：	データなし	データなし
自然発火温度：	データなし	データなし
燃焼又は爆発範囲：		
（上限）	データなし	データなし
（下限）	データなし	データなし
蒸気圧：	データなし	データなし
蒸気密度：	データなし	データなし
比重：	データなし	データなし
溶解性：	データなし	データなし
オクタノール／水分配係数：	データなし	データなし
分解温度：	データなし	データなし

10. 安定性及び反応性

本混合物では確認していないが、含有している成分（アジ化ナトリウム、チメロサル）で以下の情報が報告されている。

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」 「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」 「*Legionella* FITC IgG Conjugate」 に共通

成分（危険有害物質）：アジ化ナトリウム

安定性： 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。

危険有害反応可能性： 融点以上に、特に急速に加熱すると爆発することがあり、火災や爆発の危険をもたらす。銅、鉛、銀、水銀、二硫化水素と反応し、特に衝撃に敏感な化合物を生成する。酸と反応し、有毒で爆発性のアジ化水素を生成する。

避けるべき条件： 融点以上に、特に急速に加熱。

混触危険物質： 銅、鉛、銀、水銀、二硫化水素、酸

危険有害な分解生成物： 衝撃に敏感な化合物、アジ化水素

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」 「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」

「*Legionella* FITC IgG Conjugate」 「*Legionella* Mounting Medium」 に共通

成分 (危険有害物質) : チメロサル

安定性 : 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。

危険有害反応可能性 : データなし

避けるべき条件 : データなし

危険有害な分解生成物 : データなし

1 1. 有害性情報

本混合物では確認していないが、含有している成分 (アジ化ナトリウム、チメロサル) で以下の情報が報告されている。

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」 「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」

「*Legionella* FITC IgG Conjugate」 に共通

成分 (危険有害物質) : アジ化ナトリウム

急性毒性 :

経口 ラット LD₅₀ 45mg/kg (DFGOT vol. 20 (2003))

飲み込むと生命に危険 (区分 2)

経皮 ウサギ LD₅₀ 20mg/kg (ACGIH (2001))

皮膚に接触すると生命に危険 (区分 1)

吸入 (ガス) GHS 定義における固体である。

吸入 (蒸気) データなし

吸入 (粉じん) データ不足で分類できない。

なおラット LC₅₀ 37mg/m³ が報告されているが、ばく露時間が不明である。

皮膚腐食性・刺激性 : ウサギの皮膚に適用した試験の結果、適用 4 時間後に腐食性を示し、6 匹中 3 匹が死亡したとの報告に基づき区分 1 とした。

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (区分 1)

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 :

皮膚腐食性が区分 1 なので、眼も「区分 1」とした。

重篤な眼の損傷 (区分 1)

呼吸器感作性又は皮膚感作性 : データなし

生殖細胞変異原性 : in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro 変異原性試験では、微生物復帰変異試験で陽性の結果 (ACGIH (2001))、ヒトリンパ球またはチャイニーズハムスター卵巣細胞を用いた染色体異常試験、マウスリンパ腫細胞を用いた遺伝子突然変異試験ではいずれも陰性結果 (DFGOT vol. 20 (2003)) であった。強い変異原性は微生物に特有のものとみなされている (DFGOT vol. 20 (2003))。

発がん性 : ACGIH により A4 に分類されている (ACGIH-TLV (2005)) ので「区分外」とした。なお、ラットを用いた 2 年間経口投与による試験で、用量依存的な体重増加抑制と高用量群における生存率の低下が見られたが、発がん性の証拠は見出されていない (NTP TR. 389 (1991))。

生殖毒性 : ハムスターの皮下に埋め込まれた浸透ミニポンプから妊娠 7~9 日目にばく露した結果、2/15 匹が死亡、早期吸収の有意な増加、脳ヘルニアの発生が認められている (DFGOT vol. 20 (2003)) が、

併せて、証拠文書として不十分なため出生前の毒性評価には使用できないと述べられている(DFGOT vol.20 (2003))。かつ、投与方法も特殊であることから「分類できない」とした。

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)：

経口摂取による中毒事故で心臓の強い鼓動、気絶、心臓虚血を呈した5人の実験技術者の例(NTP TR.389 (1991))、10~20gを摂取後、精神状態の変化、顕著なアシドーシス、心律動異常、心拍数低下、低血圧を招き死亡した化学者の例(NTP TR.389 (1991))、極めて少量摂取した場合でも頻脈、過換気、低血圧を示した実験技術者の例(HSDB (2009))などの症例報告がある一方、本物質の標的器官は心臓血管系であり、末梢血管の拡張を起し血圧低下を招くと記述されている(DFGOT vol.20 (2003))ことから、区分1(心血管系)とした。また、上述のヒトの事例ではさらに症状として、めまい、気絶、精神状態の変化、非心臓性の肺水腫、代謝性アシドーシスが見られ、また、本物質を数グラム摂取した自殺例(ACGIH (2001))の所見として、肺水腫と脳水腫の記載があることから区分1(肺、中枢神経系、全身毒性)とした。なお、動物試験では経口投与により、ラットで心拍数低下と全身痙攣(DFGOT vol.20 (2003))、ウサギで血圧低下と心臓障害(PATTY (5th. 2001))が記録されている。

心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性の障害(区分1)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)：

ラットの13週間反復経口ばく露試験の最高用量(20mg/kg/day)で臨床症状としてし眠、努力呼吸、死亡、組織学的病変として大脳と視床に壊死が観察された(NTP TR.389 (1991))。さらに、2年間反復経口ばく露試験では最高用量(10mg/kg/day)で生存率の低下が見られ、この低下は試験物質ばく露に起因する脳の壊死と心血管虚脱が原因である述べられている(NTP TR.389 (1991))、ことから、区分1(中枢神経系、心血管系)とした。また、上記のラット13週間経口ばく露試験の20mg/kg/dayでは、肺のうっ血、出血と水腫も観察されているので区分2(肺)とした。なお、イヌの反復経口ばく露試験(1~10mg/kg/day)でも運動失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されている(HSDB (2009))が、ヒトのばく露に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。

長期にわたる、または、反復ばく露により、中枢神経系、心血管系、肺の障害(区分1)

吸引性呼吸器有害性：データなし

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」「*Legionella* FITC IgG Conjugate」「*Legionella* Mounting Medium」に共通

成分(危険有害物質)：チメロサル

急性毒性：

経口： RTECS(2004)のラットのLD₅₀=75mg/kgから、区分3とした。
飲み込むと有毒(区分3)

- 経皮： データなし
- 吸入（ガス）： GHSの定義における固体。
- 吸入（蒸気）： データなし
- 吸入（粉じん）： データなし
- 吸入（ミスト）： データなし
- 皮膚侵食性・刺激性： データなし。
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性： ウサギにおける RTECS(2004)に“Mild”の記述があるため、区分 2B とした。
眼刺激（区分 2B）
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性：
呼吸器感作性： データなし。
皮膚感作性： DFGOTvol. 15(2001)にヒトおよびモルモットにおいて皮膚感作性を示す報告が複数あり、区分 1 とした。
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ（区分 1）
- 生殖細胞変異原性： マウスの in vivo 小核試験および染色体異常試験における陽性事例(RTECS(2004)、HSDB(2004))から、区分 2 とした。
遺伝性疾患のおそれの疑い(区分 2)
- 発がん性： Priority 2 出典の RTECS(2004)にラットの発がん性試験の報告があり、子宮がんがみられ、RTECS criteria で“Neoplastic(腫瘍性)”としているため、区分 2 とした。
発がんのおそれの疑い（区分 2）
- 生殖毒性： California Proposition 65 (California EPA/OEHHA, 2005)に水銀化合物として生殖毒性があるとされており、区分 1B とした。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ（区分 1B）
- 特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：
Priority 2 出典の HSDB(2004)のヒトの報告例(2件)から、区分 2(血液系、腎臓、中枢神経系、皮膚)とした。
血液系 腎臓 皮膚 中枢神経系の障害のおそれ（区分 2）
- 特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：
Priority 1 出典の ACGIH-TLV (2004)では、アルキル水銀化合物の反復ばく露により中枢神経系に影響があるとされており、区分 1(中枢神経系)とした。
長期又は反復ばく露による中枢神経系の障害（区分 1）
- 吸引性呼吸器有害性： データなし

1 2. 環境影響情報

本混合物では確認していないが、含有している成分（アジ化ナトリウム、チメロサル）で以下の情報が報告されている。

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」「*Legionella* FITC IgG Conjugate」に共通

成分（危険有害物質）： アジ化ナトリウム

水生環境急性有害性： 藻類(*Pseudokirchneriella subcapitata*)での 96 時間 $ErC_{50} = 348 \mu\text{g/L}$ (AQUIRE, 2010) であることから、区分 1 とした。

水生生物に非常に強い毒性（区分 1）

水生環境慢性有害性： 急性毒性が区分 1、生物蓄積性が低いと推定されるものの (log

$Kow \leq 0.3$ (既存化学物質安全性点検データ)、急速分解性がない
(直接測定 (HPLC) による分解度: 1%(既存化学物質安全性点検データ)) ことから、区分1とした。
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性 (区分1)

「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」
「*Legionella* FITC IgG Conjugate」「*Legionella* Mounting Medium」に共通

成分 (危険有害物質): チメロサル

水生環境急性有害性: データ不足のため分類できない。

水生環境慢性有害性: データ不足のため分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) 及び関係する法規に従って処理を行うこと。「*L.pneumophila* Serogroup 1 Positive Control, IFA」、「*L.pneumophila* Negative Control, IFA」、「*Legionella* FITC IgG Conjugate」及び「*Legionella* Mounting Medium」は、水銀を含むチメロサルを含有するので、吸着処理等を行った後に廃棄すること。使用した汚染容器は水で十分洗浄し、法令に従って処分する。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

輸送に際しては直射日光を避け、容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下および損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行うこと。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法:

第57条の2 (施行令第18条の2別表第9) 名称等を通知すべき有害物

政令番号第9号 (アジ化ナトリウム) 本製品は1%未満のため該当しない。

毒物及び劇物取締法:

毒物 指定令第1条第1号 (アジ化ナトリウム) 本製品は0.1%以下のため該当しない。

毒物 指定令第1条第17号 (水銀化合物及びこれを含有する製剤)

化学物質排出把握管理促進法:

第1種指定化学物質 施行令第1条別表第1

政令番号第11号 (アジ化ナトリウム) 本製品での含有率は1%未満のため該当しない。

政令番号第237号 (水銀及びその化合物) 本製品での含有率は1%未満のため該当しない。

1 6. その他の情報

主な引用文献

職場のあんぜんサイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/index.html>

記載内容については、現時点で入手できる資料等に基づいて作成したのですが、

すべてを網羅しておりませんので、取扱いの際には十分注意してください。